

## 令和7年度使用教科用図書の採択に係る会議録

1. 開催日時 令和6年7月29日(月) 9時30分より

2. 出席者 教 育 長 奥村 恒也  
教育長職務代理者 中島 康貴  
委 員 田中 妙子  
委 員 山口 健  
委 員 中瓦 智子  
(事務局)  
教育参事兼学校教育課長 高木 雅春  
生涯学習課長 日比野克彦  
学校教育指導主事 尾崎 淳  
学校教育指導主事 高木健太郎  
学校教育係長 玉川 勇気

### 3. 会議録

教育長

議案第16号 令和7年度使用教科用図書の選定について  
まず、事務局より説明をお願いします。

学校教育係  
長

では、最初は私から説明をさせていただきます。  
議案書は1ページ、資料綴も1ページです。

5月に行われました第5回定例会におきまして岐阜県教科用図書可茂地区採択協議会の設置について承認を受け、これに基づき可茂地区採択協議会が設置されています。協議会において、令和7年度に使用する教科用図書の選定を行い、採択原案が、資料綴に示しておりますとおりとなります。議案資料1ページが小学校の方の可茂地区採択原案、2ページの方が中学校の採択原案となります。御嵩町においても、可茂地区採択協議会の選定のとおり令和7年度に使用する教科用図書を選定したく、本議案を提出するものです。

可茂地区採択協議会における選定理由等につきましては、教育長から説明をさせていただきます。

教育長

はい。それでは説明させていただきます。できるだけコンパクトにとは思いますが、長丁場になりそうですのでよろしく願いいたします。

本年度は、令和7年度使用の中学校教科用図書の採択換えの年になります。可茂地区採択協議会の採択原案を受けて御嵩町の生徒たちの使用する教科書を採択していただきます。

全部で16種目ございます。国語、書写、地理、歴史、公民、地図帳、数学、理科、音楽一般、音楽器楽合奏、美術、保健体育、技術、家庭、英語、道徳の16種目です。可茂地区採択協議会における調査結果を参考にさせていただき、協議をお願いします。

可茂地区採択協議会では、各種目の調査研究員が国の検定を通過した全ての教科書会社の教科書について、お手元にお配りした資料、評価表です。これが地区の採択協議会の調査結果になっています。この調査結果をもとにしながら説明します。

開いていただくと大きく3つの調査項目と、それぞれに3つずつ、9つの着眼点があります。研究調査員は着眼点をもとにしながら調査研究を行い、可茂地区の生徒の現状や実態、教員の経験年数や構成等に応じた適切な教科書の採択原案を示しています。

その原案を参考に、各市町村で使用する教科書について協議し、議決していただくのがこの議案となります。

この後、各種目について説明させていただき、質疑を経て採択について議決を行っていただくという手順で進めていきます。

種目ごとに数者の教科書がありますが、その全ての教科書の調査研究の内容について説明していくと多くの時間を要しますので、進め方としては、地区の調査研究結果において評価表の◎の特に優れている、○の優れている、この◎と○の数を勘案し、その上位2者について説明をさせていただき、協議及び議決を行っていただくという流れで行いたいと思います。

御嵩町の生徒の実態として、個々の学力の幅が大きいことや特別な支援が必要な生徒、外国につながるのがある生徒が多いという実態があります。これは、可茂地区全体の生徒の実態と共通するものであります。また、経験年数の浅い教員が御嵩町に多いことも可茂地区の教員構成と共通しています。こうした御嵩町の生徒や教員の実態から、可茂地区における調査研究の評価を参考にしていと判断するものです。

比較する箇所は、教科書の一部となりますが、そこで紹介させていただき構成の工夫や意図がその教科書の他の内容でも反映されているとご理解いただき、採決をしていただきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

それでは、国語から始めさせていただきます。

国語は、東京書籍、三省堂、教育出版、光村図書の4者です。研究調査による上位2者は、三省堂と光村図書です。可茂地区で採択された教科書は、光村図書です。まず、主体的・対話的で深い学び及び個別最適な学び、協働的な学びの視点から両者を比較します。

三省堂は、各教材のあとに「学びの道しるべ」と題して様々な言語活動を紹介しています。「学びを広げる」では、「自分が筆者ならどのような図を加えるか」といった、より主体的に学びに向かうアプローチもされています。ただ、単位時間の活動が多岐にわたり、身につけたい資質・能力が焦点化しにくいところが若干の課題としてあると考えられます。

光村図書は、同じ説明文の中で「学びへの扉」と題した学習の手引きがあります。単元を通した流れが見通しやすい構成で生徒の主体的な学びに役立つ要素が含まれています。学習の流れとして、個別の学習から話し合いや交流など協働の学びで深めていくプロセスとなっており、生徒にも教師にも学習展開がつかみやすくなっています。また、「学びのカギ」として重点内容について説明が加えられており、個別の学習に役立てられる構成となっています。これを拠り所としながら生徒が主体的に学びを進めやすくなっています。三省堂にはない構成となっているところでは、

次に、資料編の充実について見ると、文法の言葉の単位のページでは、光村の方がよりページを割いて丁寧な解説がされており、生徒が理解しやすい構成となっています。

以上のように、学習への見通しが持ちやすく、分かりやすい、また、幅広い層の学習者に、より対応しやすいなどの点から、光村図書がより適していると考えられます。

以上が国語となりますが、何かご質問、意見等ありましたらお願いします。

<意見なし>

よろしいでしょうか。また最後にまとめてお1人ずつご意見ご質問等ありましたらいただければと思います。

では次に、書写について説明します。

書写は、東京書籍、三省堂、教育出版、光村図書の4者です。上位2者は、東京書籍と光村図書です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。1年生「点画の連続」の学習で比較します。

光村図書は、楷書と行書の比較が毛筆体で示され、行書の特徴が捉えやすいよう工夫されています。行書はここで初めて学ぶものになります。東京書籍は、毛筆でなくペン字での比較となっています。「目標」から「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返ろう」まで見開きのページに授業全体が集約され、学習の流れが把握しやすいよう工夫されています。さらに、東京書籍には行書の書き方のまとめのページが

掲載されており、よりていねいな学習が進められるように工夫されています。

それから、書写については、学習したことを日常に生かすことが学習目標の一つになっています。光村図書では、例えば総合的な学習の時間とのつながりを想定して「防災フェスタを開こう」を載せています。写真に掲載して、準備から開催まで視覚を通してイメージが持てるように工夫されています。そこに、書写で学習した内容が関連づけられるようになっていくところです。東京書籍では、同じく「生活に広げよう」と題して防災訓練を取り上げています。手順や準備の段階で書写の学習とのつながりが分かりやすくページを割いて解説されています。東京書籍の方がより生徒の主体的な学びを促すよう工夫されているといえます。

以上のように、学習への見通しが持ちやすく、生徒の主体的な学習により対応しやすいなどの点から、東京書籍がより適していると考えられます。

次に、社会についてです。

社会には地理的分野、歴史的分野、公民的分野があります。

社会科では、社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指しています。課題を追求したり解決したりする活動を通して、社会的な見方・考え方、情報を適切に調べまとめる技能、多角的に考え選択・判断する力、地域社会に対する誇り・愛情や地域社会の一員としての自覚を持てるようにすること、こうした力を育てることを大切にしています。

ではまず地理から説明します。

地理は、東京書籍、日本文教出版、帝国書院、教育出版の4者です。上位2者は東京書籍と日本文教出版です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。主体的・対話的で深い学びの視点から「世界各地の人々の生活と環境」の単元のまとめの学習で比較します。

日本文教出版は、「気候推理ゲーム」を行うことで、写真をもとにどこの気候なのかを話し合ったり、推理ゲームを作って考え合ったりすることで楽しく単元のまとめができる工夫がなされています。東京書籍は、世界旅行を企画する学習が位置づけられています。行き先の気候を考えていつ行くと良いのか、そのときの服装や伝統的な食事は何かなどをグループや個人で調べながら、旅行マップを作成するという活動が設定されている特徴があります。グループで意見を交流しながら学習するという協働的な学びも取り入れながら、学びに広がりや深まりが期待できます。

次に、地理では特に、資料の活用能力が重要になってきます。この視点から両者を比較します。日本文教出版は、「スキルUP」のコーナーを設けて資料の活用の仕方を説明しています。東京書籍では、「資料から発見！資料を活用する力をきたえよう」のコーナーを設けて、活用能力の育成を図っています。特に東京書籍の方では、複数の資料をもとに考えを深める資料の見方について取り上げられていて、生徒が資料から必要な情報を収集し、関連付けて課題解決に向かう力の育成が図られるよう、よく工夫されているといえます。

こうした点から、東京書籍がより適しているといえます。

続けて、歴史について説明します。

歴史は、東京書籍、日本文教出版、帝国書院、教育出版、育鵬社、自由社、山川出版、学び舎、令和書籍の9者です。上位2者は東京書籍と日本文教出版です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。「主体的な学び」の視点から「江戸幕府の成立」の学習で両者を比較します。

どちらの教科書も、1時間の学習が見開き2ページの構成となっています。どちらも、学習課題が明確に示されていて、東京書籍は「チェック・トライ」、日本文教出版は「確認・表現」の学習を通して見通しを持ちながら基礎的・基本的な内容の定着が図れるようになっています。違いの部分は、東京書籍の「チェック」は、「江戸幕府は大名をどのように統制したか、次の語句を使って説明しましょう。」と書かれていて、「配置」「法律」という単語が示されています。こうしたキーワードを示すことによって、個々の生徒が1時間の学習をまとめる視点が持ちやすいように配慮されている、ここが違いの部分です。

また、協働的な学びについてみると、日本文教出版は、「学び合い」のマークで単元の始めと終わりに意図的にグループで話し合う活動を取り入れるよう仕組んでいるのに対して、東京書籍では、単元の途中で「みんなでチャレンジ」のコーナーを複数箇所設けています。協働的な学びをより大切に扱っていて、こうした点から、東京書籍がより適していると考えられます。

最後に公民です。

公民は、東京書籍、日本文教出版、帝国書院、教育出版、育鵬社、自由社の6者があります。上位2者は東京書籍と教育出版です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から「私たちの暮らしと政治」の学習で両者を比較します。

章末のまとめのページです。どちらも基礎・基本の確かめが位置づい

てまとめられています。東京書籍の方が、視覚的にもとらえやすく、枠や表を埋めていく形式になっており、学習者の多様性に、より対応できる工夫がなされています。さらに、まとめの活動で、教育出版は、合唱コンクールの曲決めや高校生のプロジェクト活動について考える個人追求の活動を位置づけているのに対して、東京書籍は、まとめの活動で「S市の議員になって条例を作ろう」と投げかけ、個人の活動、グループでの活動を通して、視野を広げ多様な見方や考え方が展開できるよう工夫されています。

こうした点から、東京書籍がより適しているといえます。

以上のように、社会科の教科書として、3分野とも生徒が主体的に学び、多様な見方や考え方が育成される教科書として東京書籍がより適していると考えられます。

続けていってよろしいでしょうか。何かありましたらその都度おっしゃってください。

次に地図帳についてです。

地図帳は、東京書籍と帝国書院の2者です。可茂地区で採択された地図帳は、帝国書院です。まず、各教科等との関連から比較します。SDGsに関する学習は、今日的な課題であり、生徒たちがこれから生きていく社会を形成していくために欠くことのできない学習です。両者とも、関連する複数の資料を掲載しています。帝国書院は、巻頭に7ページにわたってSDGsに関する内容を取り上げています。これは、東京書籍にはない構成の仕方です。生徒への学びを促している点が、より優れているといえます。

次に、自然災害・防災に関する内容の取り扱いについて比較すると、東京書籍より帝国書院の方が多くの資料を掲載して学びを深められるように工夫されています。

最後に、地図帳で大切な生徒に見やすいものであるかという視点です。中部地方南部の地図で比較します。文字はどちらもUDフォントが使用されていますが、文字の大きさやバックの配色の工夫で帝国書院の方がより見やすい工夫がされています。また、山脈の色合いにメリハリをつけることでより立体的に地形を把握できるような工夫も施されています。

以上のように、学びの深まりや広がり、見やすさ、活用のしやすさという点から、帝国書院の地図帳がより適していると判断しています。

次に、数学についてです。

数学は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、数研出版、日本文教出版の7者です。上位2者は東京書籍と啓林館です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。数学は個人差が出やすい教科であり、苦手意識を持つ生徒は学びに向かう意欲も低くなりがちです。また、基礎的・基本的な知識・技能の習得が課題としてあげられます。そうした点から、まず、個に応じた学びの視点から両者を比較します。

両者とも2次元コンテンツが大変充実しており、個々で取り組む時の解き方の解説や知識や理解を促す動画、シミュレーションなどが示されており指導の個別化に対応できるよう工夫されています。3年生で取り上げられているボールの落下の様子を二次関数で表す学習で掲載されている内容を比較します。啓林館は、ボールがスッと落ちていく様子が動画のシミュレーションで出ています。東京書籍では落下の様子をグラフと対応させながら、反転してグラフに沿った形でも表示されたり、より丁寧に解説されていることがわかります。ちょっとしたQRコードの中でも工夫が違います。

次に、「主体的な学び」として、課題解決に向かう意欲や思考の連続性について比較します。東京書籍では、章を貫く題材を設定し、節をつなぎながら問題解決に向かえるようよく工夫されています。1年生の「文字と式」の章で見えていきますと、導入で、本棚をつくるために必要な棒の本数を求める問題を設定し、平面の正方形が増えていく問題から立体の立方体が増えていく問題へとつなぎ、本棚をつくる時に必要な棒の数を導く展開となっており生徒の問題解決に向かう思考の連続性によく配慮された構成になっています。

啓林館でも同じような工夫がされていますが、掲示物の数が増えていくときのマグネットの数の増え方を導入で扱い、発展的に考える場面では、貼り方を変えて考えるという方法です。これも考え方としては関連はあるといえませんが、ひとつの本棚をつくる目的とは少し意味合いが違ってくると考えます。また、章末の節では啓林館では「数あてマジック」を扱っていて、東京書籍では、本棚の完成からの繋がりでもとめに入っています。

以上のように、個別最適な学びや、主体的に取り組み、基礎・基本を身につけていく構成の工夫などの点から、東京書籍がより適していると考えられます。

続いて、理科に入っていきます。

理科は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館の5者

です。上位2者は、東京書籍と啓林館です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。理科では、理科の見方や考え方を働かせた問題解決や探求する力の育成を大切にしています。主体的な学びの視点から、水溶液の性質の単元における溶解度と再結晶の学習で両者を比較します。

東京書籍では、見開きページの左下に学習の流れと該当する部分が色付けして示されていて、自分が今何を確かめようとしているのか、何について考えをまとめていけば良いのかが分かりやすい構成になっています。さらに、問題発見から仮説、実験、分析解釈、例題、活用、章末までの見出しが大きく示され、生徒が見通しを持ちながら主体的に学習に取り組めるよう構成されています。啓林館では、「考えてみよう」を学習の流れに沿って随所に配置して生徒の主体的な学びを促しています。見通しを持った学習が主体的に進められるという点において東京書籍がより適していると考えられます。

また、内容の構成では、啓林館では、知識理解を先に押さえたうえで実験に向かう構成となっているのに対し、東京書籍では、課題、仮説、実験が先に位置づけられ、その分析解釈を通して知識理解について押さえる構成が取られています。より探求的な学びという視点からも東京書籍がより適していると考えられます。

以上のように、主体的な学びや探求的な学びを促す構成の工夫という点から、東京書籍がより適していると考えられます。

続いて音楽です。音楽の教科書は、音楽一般と器楽があります。

音楽一般は、教育出版と教育芸術社の2者です。可茂地区で採択された教科書は、教育芸術社です。

器楽合奏は、教育出版と教育芸術社の2者です。可茂地区で採択された教科書は、教育芸術社です。

音楽で大切にすることは、基礎・基本の習得と、課題解決のための思考力・判断力・表現力、そして主体的な学びの3点です。

まず、音楽一般から説明します。

リズム学習では、教育出版は、具体的な曲をもとにリズムパターンを作っていく構成になっています。一方で、教育芸術社は、まず、身近な言葉の抑揚やリズムゲームを通してリズムの基礎・基本について学び、さらに、独自のリズムを作って仲間と演奏するリズムアンサンブルまで発展させています。また、途中には、イラストと吹き出しを多く位置づけて、主体的に考えていく手助けとなるように構成されている特徴があります。

また、歌唱教材の「花」が両者に位置づいていますが、教育出版では、学習目標が「曲の形式を生かして歌おう」となっていますが、教育芸術社は「情景を思い浮かべながら、言葉を大切に合唱しよう」と学習内容がより具体的になっています。また、「歌詞に描かれた情景や日本語の持つ美しさは、音楽にどのように表現されているだろう」という問いもあり、より主体的に学習に取り組むことができるよう視点を明確にしています。

また、音楽の教科書2次元コードが非常に充実しておりまして、特に教育芸術社を見ていただくと、「花」の歌唱練習のためのパート別の音源が用意されており、生徒たちは、いつでも、どこでもパート練習ができるよう配慮されています。生徒たちのできるようになりたいという意欲を後押しする工夫があります。

以上のように、生徒たちが基礎・基本を身につけながら主体的に学習できる構成や工夫という点から、教育芸術社のほうがより適していると考えられます。

次に器楽について説明します。「箏」の学習で両者を比較します。

教育出版では、箏の歴史や各部の名称、基本的な構えと奏法を学習します。学習目標が3つ設定され、4つの練習曲と2つのまとめの曲を通して箏の奏法について学びます。教育芸術社は、箏の鑑賞から導入し、イメージをふくらませてから箏の歴史や各部の名称、基本的な構えと奏法を学習します。特に、奏法については、教育芸術社には、「基本的な奏法」や「いろいろな奏法」について細かく掲載され、より丁寧な学習ができるよう構成されています。

そうした点から、音楽一般の教科書と同様に、生徒たちが基礎・基本を身につけながら主体的に学習できる構成や工夫と点から、教育芸術社のほうがより適していると考えられます。

次に、美術です。美術は、開隆堂、光村図書、日本文教出版の3者です。上位2者は、光村図書と日本文教出版です。可茂地区で採択された教科書は、日本文教出版です。美術では、創造することの楽しさ、造形的な活動の基礎的な資質・能力を育てること、主体的に表現したり鑑賞したりすることを大切にしています。まず主体的・対話的で深い学びの視点から両者を比較します。

1年生の最初の題材、「身の回りの物を見つめ、絵として表現する」学習で比較します。光村図書は、題材の目標、鑑賞、参考作品があり、参考作品には、作者の思いと工夫が載せられています。日本文教出版は、同様に目標、鑑賞、参考作品の構成がありますが、光村図書と大きく違

うのは、「造形的な視点」と「表現のヒント」が囲みでわかりやすく示されている点です。これは、生徒たちが造形的な見方、考え方というのが苦手な子どもたちも多い中で、自ら造形的な活動に向かう具体的な視点となります。この「造形的な視点」と「表現のヒント」はすべての題材で掲載されており、生徒たちが造形的な活動に主体的な向かう資質・能力を身につけていくことができるよう工夫されています。

次に、生徒が作品づくりに向かう時に抵抗を感じるものの一つに、どんな作品にするかという発想や構想が決められずに立ち止まってしまうという実態があり、課題として挙げられていることも多いです。光村図書では別冊資料に「発想・構想のために」を掲載して、具体的な視点や方法を紹介しています。日本文教出版は、巻末の学びを支える資料で「発想・構想の手立て」を掲載してアーティストの作品づくりのプロセスや協働的な学びを位置づけた発想や構想の方法・工夫を紹介しています。発想や構想に至る流れの分かりやすさや学び合いの充実という点で日本文教出版がより優れていると考えられます。

以上のように、生徒たちの主体的・協働的な学びを促し、資質・能力を伸ばす構成の工夫という点から、日本文教出版がより適していると考えられます。

次に、保健体育です。保健体育の教科書は、東京書籍、大日本図書、大修館書店、学研の4者です。上位2者は、東京書籍と大修館書店です。可茂地区で採択された教科書は、大修館書店です。保健体育科では、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを大切にしています。健康の保持増進という点から日常生活との関連の視点で両者を比較します。

性に関する学習で説明します。東京書籍は、「性に関する適切な態度や行動の選択」で、性への関心事や情報の入手先をグラフで示して、身近な生活との関連や同世代の人と自分自身を比較しながら考えを深められるよう工夫されています。また、犯罪被害の状況や誤った情報に惑わされないための注意点を載せて日常に生かせるよう工夫されています。

大修館書店は、性情報の入手先を中学生と高校生で比較し、性への関心には性差や個人差があることを強調しています。コラムには「自画撮り被害」の事例を載せて具体的な事例をもとにしながら現代社会の課題でもある SNS による性被害について深く考えることができるよう工夫されています。それから、性についての多様な考え方について取り上げ、性的マイノリティの人たちの不安や悩みについて考える学習を位置づけています。東京書籍では、章末資料に性の多様性として取り上げられ

ていますが、大修館書店ほど具体的でないという評価になっています。

以上のように、より日常生活との関連が意識された構成となっていることや具体的な視点の広がりなどの点から、大修館書店がより適していると考えられます。

次に、技術・家庭科です。技術・家庭科でも、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、身につけた力を家庭生活に結び付けていくことを大切にしています。

まず、技術から説明します。技術は、東京書籍、教育図書、開隆堂の3者です。上位2者は、東京書籍と教育図書です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。材料と加工の技術の学習の問題解決の学習で比較します。

教育図書は、本立ての制作を例に身近な問題への気づきを促しています。自分の机の上が汚くてなんとかしたいというところが導入となっています。東京書籍は、生活の中で感じる「こうだったらいいのにな」の思いから広く生活場面から問題への気づきを促しているというのが違いとして挙げられています。

構想、設計、製作の流れはどちらの教科書も同じですが、東京書籍には、「問題解決の評価、改善・修正」の学習が明確に位置づけられています。問題に対して制作したものによって最初の問題が解決できたかを振り返り、それをもとにして次に繋ぐ見方や考え方は、実生活をより良くしていくために大切な資質・能力といえ、こうしたことが位置づいています。

次に、題材例というのが示されていますが、教育図書は、プランターラック、小物ラック、スタンドの具体的な作品を3つ取り上げているのに対して、東京書籍は見方が少し違って、まず「あったらいいなを形にしよう」として題材例が載っています。次に、「誰かのためにあったらいいな」という視点が示され、そこでプランターラック等が取り上げられています。もうひとつ、「サステナブルなものづくりに挑戦しよう」とあって、持続可能な社会に繋がるような作品など、これだけページを割いて、視点を明確に示した上で、作品を示すという工夫がされていて、実生活の中で問題に気づく視点を持つことによって生徒自身が身近な生活や社会について考える力を身につけていくことができるようよく配慮されています。

以上のように、生活とのつながりがより重視された構成となっている点から、東京書籍がより適していると考えられます。

次に、家庭科です。家庭科は、東京書籍、教育図書、開隆堂の3者です。上位2者は、東京書籍と開隆堂です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。スナップ付けの学習で両者を比較します。

開隆堂は、半ページに、手元を拡大した写真で手順を示しています。文字での説明に頼る部分が多くなっているのに対して、東京書籍では、教科書の見開きに大きく手元の拡大写真とイラストを用いて手順を示しています。また、生徒が行いそうな失敗例が示されていて、気をつけながら正しい付け方の技能を習得しやすい工夫がしてあります。免許外指導、家庭科の先生がいないという学校もありますが、免許外申請をして家庭科を指導する場合でも、こうしたことを参考にしながら、指導のしやすさという点からも東京書籍がより配慮されていると考えられます。

それから、自分らしい着衣、着方の学習では、開隆堂では、2次元コードでワークシートをダウンロードして、教師が何色かの布を準備し、チェックする学習活動が設定されています。東京書籍では、タブレット上で服の色や襟の形、柄の大きさなど自由に試すことが出来るようになっていきます。さらに、写真で自分の顔を取り込むことができ、自分にあった色や柄をいろいろ試すことができるようになっていきます。教師にとっても教材の準備にかかる時間を削減することができます。

以上のように、生徒にとってより分かりやすく興味を持って学習に向かうことのできる配慮や教師の指導のしやすさという点から、東京書籍がより適しているという評価になっています。

次に英語です。英語は、東京書籍、三省堂、光村図書、開隆堂、啓林館、教育出版の6者です。上位2者は、東京書籍と三省堂です。可茂地区で採択された教科書は、東京書籍です。英語では、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを大切にしています。まず、自分の考えや気持ちを表現するための工夫について両者を比較します。

三省堂は、各単元に「Small Talk」と「Small Talk Plus」が設定され、即興的なやりとりの言語活動に配慮されています。巻末の「Tips for Small Talk」として Small Talk のためのヒントが示されていて、ここでは、即興的なやりとりにおける表現が掲載され、生徒がそれを参考にして個別最適な学びを進める工夫がされています。

東京書籍は、巻末資料に「帯活動用 Small Talk 即興で伝え合おう」が掲載されています。ここでいう帯活動は、例えば毎日の朝の活動や英語の毎時間の初めに継続して取り組む活動です。帯活動によって毎時間継続的に繰り返し即興的なやりとりの言語活動を行うことができるよ

うになっています。また、「Expression List」として帯活動で使う表現のリストが多く示されていて、質問と表現の例・二次元コードが掲載され、生徒が主体的に活用したり発展したりして表現でき、個別最適な学びを進める工夫がされています。

どちらも充実していますが、継続した言語活動ができる工夫や個に応じた学びを主体的に進められる工夫という点から東京書籍がより適していると考えられます。

次に、小集団による協働的な学びの充実について、3年生の単元末の活動を例に比較します。三省堂は、広島の修学旅行を題材にし、単元末で「The Story of Sadako」を読み、自分の考えや意見を仲間と伝え合おうという活動が設定されています。その後の「Project」という活動では、旅行プランを作成し発表する活動が位置づけられ、協働的な学びを進める構成となっています。

対して東京書籍は、絶滅の恐れのある動物を題材に学習し、単元末の「Unit Activity」というところでは、絶滅危惧種に関する情報を伝える記事を書き、動物保護について話し合う協働的な学びが位置づけられています。さらに、そこをまとめていくことによって、動物保護をテーマに一貫した思考の流れの中で問題解決に向かう協働的な学びが設定されている点で、より工夫された構成になっていると考えられます。

以上のように、個に応じた学びや協働的な学びを進める上で、より、工夫された構成となっていることから、東京書籍がより適していると考えられます。

最後に道徳についてです。道徳は、東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版、学研、あかつき教育図書、日本教科書の7者です。道徳では、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育むことを大切にしています。上位2者は東京書籍と光村図書です。可茂地区で採択された教科書は、光村図書です。まず、いじめに関する教材で、多面的・多角的に考えるための教材配列について比較します。

東京書籍は、3つの教材でユニットが組まれています。3つの教材すべてが自分自身に関するものを取り上げています。道徳では、自分自身に関すること、ほかの人との関わり、集団や社会との関わり、それから自然や崇高なものとの関わり、の大きく4つ、ねらいとする内容項目のまとまりがありますが、今申し上げた東京書籍では、3つの教材がすべて自分自身に関わる内容で構成された資料になっています。

この4つの視点を意識していただきながら光村図書の方の教科書を

見ていただくと、同じく3つの教材でユニットが組まれています。3つの教材は1つは自分自身に関する事、1つは人とのかかわりに関するところ、もうひとつは集団や社会との関わりに関するところと、3つの視点からいじめについて考えることができるようよく工夫されています。

次に発問について見てみます。3年生の「足袋の季節」という教材で両者を比較します。非常に有名な教材ですがご存知でしょうか。私も小中学校どちらかで勉強した記憶があります。あらすじは、主人公が子どもの頃、足袋も買えないほど貧しい生活を送っていた時に、餅を売るおばあさんからつり銭を多く受け取ったことで、これで足袋が買える、とごまかして、黙ってその場を立ち去ったことを後悔し続け、大人になり職に就いた初月給を握りそのおばあさんのところに向かったが、既におばあさんは亡くなっていた。それを知った主人公は、無性に自分に腹が立ち、泣けて、泣けてどうしようもなかった、というものです。

ここに対する発問の例として紹介されているのが、東京書籍は、無性に腹が立ってしようがなかったのは、どうしてだろうと問いかけています。主人公が腹を立てた理由を考えることを通して、客観的に主人公の心情を考えるという発問となっています。一方、光村図書は「泣けて、泣けて、どうしようもなかったとき、私はどんなことを思っていたのだろう」という発問が提示されています。「どんなこと」という問いは、主人公を自分自身と重ねて考える発問になっているため、より多様な思いを生徒に気付かせることのできる工夫がされています。

自分の考えを持ち、話し合うことで他の生徒の様々な価値観にふれ、自分の考えをより深めていくことを大切にしているという点からも光村図書の発問はより精選されていると評価されています。

以上のように、より多面的・多角的に考えることができ、仲間との学び合いから多様な見方や考え方に触れることができるように構成されている光村図書が、より適していると考えられます。

以上、大変長くなりましたが、すべての教科について説明をさせていただきました。では、全体を通じて一言ずつご意見やご感想等いただければと思います。よろしくお願いいたします。

中島委員

生徒の幅があるということで、情報量の多すぎる、あるいは少なすぎる教科書というのはあまり適していないのかなということは思っていて、そうすると、先生の教えやすさというところで教科書を選んでいくのが良いのではないかと思っています。そういった意味で今回、そのような教科書が選ばれていると思いますので、問題はないと思っています。

す。

田中委員

内容的に詳しいことはわかりませんが、先生たちが時間を割いて選定されていて、この教科書はこういうところが良いというのがよくわかりました。今ここに並んでいる教科書を見て、かなりの量がある、かなりの量を毎日この量ではないにしろ子どもたちが持ち運んでいるんだなというのは感じました。こういうところからもデジタル化が進めば良いということを感じました。

山口委員

どの教科も目的がはっきりとしていることが大事だと思っていて、どうしてこの勉強をするのか明確にすることが必要と思っています。先ほど見た教科書の中では、日常生活にどう使っていくのか、例えば世界旅行を題材にするなどより具体的になっていたのも、採択された教科書はそういうところが優れているなと思いました。

また、数学であったような、映像とグラフを同時に見せて理解させるといったことをQRコードを活用して行う場面などは、今までだと教える側によって差が出るようなところをかなりわかりやすくしているのが良いと思いましたし、例えば家庭で行う課題なども、デジタルを活用してできればさらに良いと思いました。

中瓦委員

今説明を聞いていて、2者の比較でもこれだけ違いがあるのかということを感じました。その中で、すべての教科書を比較検討する大変さも感じました。本当によく見比べて、どれが最適なのかということを感じていただいた中で、納得という形で見させていただき、採択基準などもとても参考になりました。良い勉強をさせていただきました。

教育長

ありがとうございます。今日ここで議決をしていただくわけですが、中学校では議決されれば来年度からこの教科書を使っていくこととなります。先生たちもその意図を汲んで、子どもたちと一緒に充実した授業をしていってほしいと思います。

それでは、採決にうつってよろしいでしょうか。

小学校の教科書については、資料1ページが可茂地区の採択原案になっています。小学校は昨年度採択替えでしたので、今年度から使用している教科書を令和7年度も使用したく、この原案が示されています。こちらの小学校の採択原案も中学校の採択原案とあわせて採決を取らせていただきます。

それではこれより採決を行います。議案第16号 令和7年度使用教

科用図書を選定について 賛成の委員の挙手を求めます。

<全委員挙手>

挙手全員のため、議案第 16 号 令和 7 年度使用教科用図書を選定については承認されました。